

万感「歴史つないだ」



ツール・ド・のと最終日 3日間411^キ走破

「大競走」に思いはせゴール



完走証手に歓喜の輪を広げる参加者―金沢市の石川県西部緑地公園

130 北國新聞
創刊130年

北國新聞創刊130年記念「ひやくまん毅
プレゼンツ第35回ツール・ド・のと400」
(同実行委、北國新聞社主催)は最終日の18
日、七尾市から金沢市までの138・2^キで
行われた。明治時代、北陸で初めて開催され
た「自転車大競走」を源流とする伝統の大会
で3日間計411^キを走り抜いた参加者は、
ゴールで誇らしげに完走証を掲げ「歴史をつ
なぐ一員になった」と歓喜の輪を広げた。

最終日は、3日間走る「チ
ャンピオンコース」などに
351人がエントリーし
た。午前7時半に七尾市を
出発し、氷見市や中能登町
を経由してゴールの石川県
西部緑地公園を目指した。
途中、激しい雨に見舞われ
ることもあったが、出場者
は力強くペダルをこぎ続
け、ゴールすると互いに健
闘をたたえた。

「3日間だからこそ、選手
同士や地域との一体感が生
まれる。ツール・ド・のと
は唯一無二の大会」と3度
目の挑戦を振り返った。
チャンピオンコースで連
続出場を続ける白山市の古
川博人さん(60)と金沢市出
身の北出裕一さん(56)は自
転車大競走に起源を持つ大
会を走破したことに「伝統
をつなぐ一人になったのな
らうれしい」と感無量の表
情でつなずいた。

今年のチャンピオンコー
ス参加者で最年少となった
堀井昂さん(12)「大津市」
は日本の景色が忘れら
れないとし、「大人になっ
ても走りたい」と笑顔を見せ
た。

最終日は、自転車界の著
名人も能登の魅力に触れ
た。ツール・ド・フランス
など欧州で30年以上活動し
てきたサイクリングフォト
グラファー・砂田弓政さん
(62)「富山市」は「美しい
海岸と昔ながらの家族が残
る能登は絵になるポイント
ばかりだ」と絶賛した。

全日本シクロクロス選手
権マスターズで優勝経験を
持つ落合友樹さん(40)「東
京」は沿道の声援が印象に
残っていると「これほど
までに住民の理解を得られ
る大会は他にない。歴史が
長いからこそだ」と力を込
めた。

「台湾勢」来年も走る
海外勢も能登路を満喫し
た。台湾から初めて参加し
た周茂麟さん(49)は「美
しい日本海沿いを走ったこ
とは一生の思い出。友達に
も声をかけて来年も参加し
たい」と話した。「八田技
師夫妻を慕い台湾と友好の
会」の徳光重人世話人代表
も遠来勢をサポートし、完
走した。

感謝
北國新聞創刊130年記念「ひやくまん毅」(プレ
ゼンツ第35回ツール・ド・のと400)は3日間の日程を
無事終了しました。沿道の皆さまのご声援ならびに関係各
位のご協力に深く感謝いたします。
ツール・ド・のと400実行委員会
北國新聞社